



ユニバーサル トランス レータ

バージョン 10

ユーザーズ ガイド

このマニュアルに記載されている事項は、予告なしに変更されることがあります。また、販売店もしくは代理店は、このマニュアルに記載されている事項に関して一切の責任を負いかねますのでご了承ください。このマニュアルを Pitney Bowes Software Inc., One Global View, Troy, New York 12180-8399 の書面による許諾なしに複製することは禁じられています。

© 2009 Pitney Bowes Software Inc. All rights reserved. Pitney Bowes Business Insight、MapInfo、Group 1 Software、および EasyLoader は、Pitney Bowes Software の 1 部門である Pitney Bowes Business Insight と、その関連会社の商標です。

南北アメリカ：

電話：(518) 285-6000

FAX：(518) 285-6070

営業部：(800) 327-8627

公共機関向け営業部：(800) 619-2333

テクニカル サポート：(518) 285-7283

テクニカル サポート FAX：(518) 285-6080

www.mapinfo.com

英国およびヨーロッパ、中東、アフリカ：

電話：+44 (0) 1753-848200

ファックス：+44 (0) 1753-621140

テクニカル サポート：+44(0) 1634-880141

www.mapinfo.co.uk

アジア太平洋地区：

電話：61 2 9437 6255

ファックス：61 2 9439 1773

テクニカル サポート：1800 648 899

www.mapinfo.com.au

日本：

電話：03-6805-1155

FAX：03-6805-5963

www.mapinfo.co.jp/

北米の各オフィスの連絡先は Pitney Bowes Business Insight <http://www.mapinfo.com/contactus> を参照してください。

Adobe Acrobat® は米国 Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

libtiff © 1988-1995 Sam Leffler, copyright © Silicon Graphics, Inc.

libgeotiff © 2009 Niles D.Ritter.

Portions © 1999 3D Graphics, Inc. All Rights Reserved.

HIL - Halo Image Library © 1993, Media Cybernetics Inc. Halo Imaging Library は Media Cybernetics, Inc の商標です。

Portions thereof LEAD Technologies, Inc. © 1991-2003. All Rights Reserved.

Portions © 1993-2009 Ken Martin, Will Schroeder, Bill Lorensen. All Rights Reserved.

ECW by ER Mapper © 1993-2009

VM Grid by Northwood Technologies, Inc., a Marconi Company © 1995-2005.

Portions © 2009 Earth Resource Mapping, Ltd. All Rights Reserved.

MrSID, MrSID Decompressor および MrSID ロゴは LizardTech, Inc. の商標で、ライセンスを受けて使用しています。このコンピュータ プログラムの一部の著作権は、LizardTech (copyright © 1995-1998) およびカリフォルニア大学にあり、米国における特許番号 5,710,835、5,130,701、5,467,110 で保護されており、使用にはライセンス契約が必要です。All rights reserved. MrSID は、米国および国際特許と、著作権条約の下保護されており、諸外国で特許申請中です。無許可での使用や複製を禁止します。

Contains FME ® Objects; © 2009 Safe Software, Inc.

Crystal Reports ® は Crystal Decisions の登録商標です。All Rights Reserved.

Civic England - Public Sector Symbols Copyright © 2009 West London Alliance. この記号は無償で使用できます。この記号を他のアプリケーションで使用するために入手する方法など、詳細については、West London Alliance Web サイト <http://www.westlondonalliance.org/> を参照してください。

© 1984-2009 Tele Atlas. All Rights Reserved. このサイトの内容は、Tele Atlas が独占するものであり、Tele Atlas が所有またはライセンス契約する著作権保護権およびその他の知的所有権の対象となります。この内容の使用は、使用許諾契約の条項の対象となります。この内容を無断でコピーまたは開示することを禁じます。

ここに記載されている製品は、それぞれの製造元の登録商標です。登録商標名は編集の目的でのみ使用されるもので、この使用によって所有者の法律上の権利を侵害するものではありません。

2009年8月

MapInfo ユニバーサル トランスレータ ユーザーズ ガイド

MapInfo ユニバーサル トランスレータは、MapInfo 形式のファイルをいくつかの異なる空間データ フォーマットに変換したり、いくつかのフォーマットを MapInfo .TAB ファイルに変換したりします。ユニバーサル トランスレータは、通常、MapInfo Professional の [ツール] メニューのツールとして動作しますが、MapBasic ウィンドウで別の言語プログラムを使って、またはバッチ ファイルモードで、手動で実行することもできます。このユーザーズ ガイドでは、この2つのプロセスについて詳しく説明します。

メモ ESRI ArcSDE、ESRI Personal Geodatabase (*.MDB)、USGS Spatial Data Transfer Standard (*.CATD.DDF)、VPF NIMA/NGA (*.FT) など、他のユニバーサル形式のデータを使用する場合は、MapInfo Professional のユニバーサルデータ オプションを使用してください。

このガイドの構成

- ◆ MapInfo ユニバーサル トランスレータの概要 4
- ◆ MapInfo Professional 内からのトランスレータの使用 4
- ◆ コマンドラインからのユニバーサル トランスレータの使用 10
- ◆ コマンドラインを用いたデータのインポート 11
- ◆ コマンドラインを用いたデータのエクスポート 18

MapInfo ユニバーサル トランスレータの概要

ユニバーサル トランスレータは、以下のファイル フォーマットを MapInfo .TAB および .MIF/MID ファイルに変換できます。

- AutoCAD DWG/DXF
- ESRI ArcInfo Export (E00)
- ESRI Shape ファイル (SHP)
- MicroStation Design (DGN)
- Spatial Data Transfer Standard (SDTS)
- Vector Product Format (VPF)

ユニバーサル トランスレータは、MapInfo .TAB および .MIF/MID ファイルを、以下のフォーマットに変換できます。

- AutoCAD DWG/DXF
- ESRI ArcInfo Export (E00)
- ESRI Shape ファイル
- MicroStation Design

MapInfo Professional 内からのトランスレータの使用

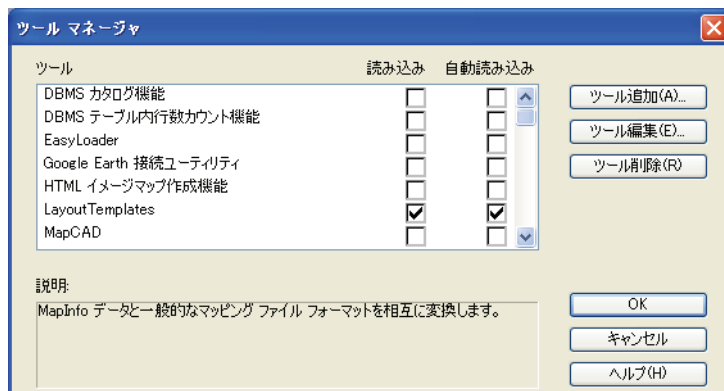
MapInfo Professional で作業中の場合は、ユニバーサル トランスレータを用いてファイルを既存のフォーマットから MapInfo .TAB または .MIF/MID 形式へ、あるいは .TAB ファイル形式から他のベクタ形式へと変換することができます。

ツール マネージャへのユニバーサル トランスレータの読み込み

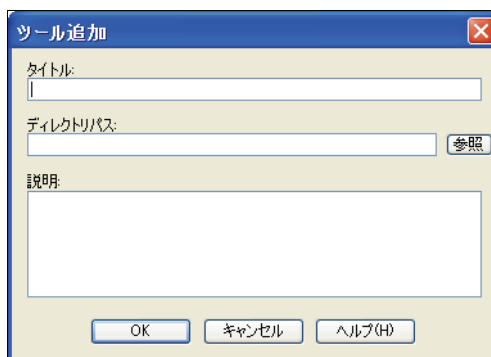
ユニバーサル トランスレータは、MapInfo Professional に自動的に読み込まれます。[ツール]>[ユニバーサル トランスレータ]>[ユニバーサル トランスレータ]を選択することにより、これにアクセスすることができます。読み込まれていない場合は、[ツール]メニューにより手動で再読み込みする必要があります。


[ツール マネージャ] メニューにユニバーサル トランスレータを読み込む方法

1. MapInfo Professional のメイン メニューで、[ツール]>[ツール マネージャ] を選択します。[ツール マネージャ] ダイアログ ボックスが表示されます。



2. [ツール] リストをスクロールし、次のいずれかの操作を行います。
 - ユニバーサル トランスレータがリストにない場合は、[ステップ 3](#) へ。
 - ユニバーサル トランスレータがリストにある場合は、そのエントリまでスクロールし、[ステップ 7](#) へ。
3. [ツール追加] ボタンをクリックし、[ツール追加] ダイアログ ボックスを表示します。

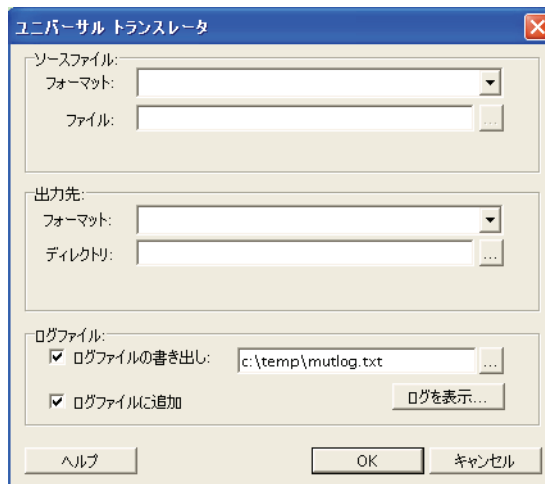


4. [説明] フィールドに「ユニバーサル トランスレータ」と入力します。
5. [場所] フィールドの隣にある  ボタンをクリックします。[MapBasic プログラム選択] ダイアログ ボックスを用いて、インストール ディレクトリの下での ¥UT フォルダで MUT.MBX ファイルを検索します。ファイルを見つけたらそれを選択し、[開く] をクリックします。
6. [OK] をクリックして、[ツール マネージャ] ウィンドウにユニバーサル トランスレータを追加します。
7. 現在のセッションの間だけユニバーサル トランスレータを読み込む場合は、[読み込み] フィールドのチェック ボックスをオンにします。MapInfo Professional を開くたびにユニバーサル トランスレータが読み込まれるようにするには、[自動読み込み] チェック ボックスをオンにします。両方のチェック ボックスを同時にオンにすることができます。
8. [OK] をクリックして、エントリを保存します。

ユニバーサル トランスレータの使用

ユニバーサル トランスレータを実行するには、次のようにします。

1. [ツール] > [ユニバーサル トランスレータ] > [ユニバーサル トランスレータ] を選択して [ユニバーサル トランスレータ] ダイアログ ボックスを表示します。



2. [ソース] ボックスの [フォーマット] のドロップ ダウン リストを使用して、フォーマットのリストを表示し、変換するデータセットのソース形式を選択します。
入力データセットのフォーマットが **MicroStation Design** である場合は、[設定] ボタンが有効になります。このボタンをクリックし、[デザイン ファイル入力設定] ダイアログ ボックスを表示します。適切な座標単位を選択します。
3. 変換するファイルの名前を入力するか、 を選択してソース ファイルを検索し、[開く] をクリックして [ユニバーサル トランスレータ] ダイアログ ボックスに戻ります。

メモ [AutoCAD] を選択した場合、トランスレータはデフォルトで DWG フォーマットを使用します。


[フォーマット] のドロップ ダウン リストから AutoCAD ファイル、ArcInfo ファイル、Shape ファイル、MicroStation Design ファイル、または Vector Product Format ファイルを選択した場合、[投影法] ボタンが有効になります。このボタンを使用して、[投影法の選択] リストを表示し、入力ファイルに対して特定の投影法を設定します。

[投影法の選択] リストに表示される投影法ファイルは、MapInfo の投影法の MAPINFOW.PRJ ファイルから取得したものです。適切な投影法エントリがリストにない場合は、対応するカスタム投影法エントリをこのファイル内に事前に作成しておくことができます (詳細については『MapInfo Professional ユーザーズ ガイド』を参照)。不適切な投影法を選択すると、正しい結果が得られない場合があります。入力ファイルでの MapInfo フォーマットへの適切な変換に使用される投影法/座標系に関して、説明的な情報やメタデータを入手するには、販売店またはこのデータの最初の作成者に連絡してください。

メモ ソースとして Shape ファイルを選択すると、[ソースファイルの投影法を使用] チェックボックスが追加で表示されます。このチェック ボックスをオンにすると、SHP ファイルと同じディレクトリに *.prj ファイルが存在する場合は、トランスレータは、*.prj ファイルの中の投影法の設定を探し、それが MapInfo Professional でサポートされている投影法ならば、それを変換用に使

4. [出力先] ボックスで、選択したファイルの変換後の形式を [フォーマット] のドロップ ダウン リストから選択します。
- ArcInfo フォーマットを選択すると、[設定] ボタンが表示されます。このボタンをクリックして、変換済みファイル用に [Coverage Precision] および [Compression] オプションを選択します。
 - MicroStation Design フォーマットを選択した場合、作成する変換済みファイルのバージョン番号を選択できます。


メモ ファイルを MapInfo .TAB ファイルに変換する場合、テーブルは、その TAB ファイルに含まれるデータを使用することが可能な MapInfo Professional バージョンに固有のバージョンで作成されます。

5. [ディレクトリ] フィールドで、変換済みファイルの出力先を入力するか、 をクリックして出力先の名前およびパスを指定します。

メモ ソース ファイルが MapInfo .TAB フォーマットであり、出力先ファイルが AutoCAD である場合は、[設定] ボタンが表示されます。クリックして [AutoCAD 出力ファイルの設定] ダイアログ ボックスを表示し、適切な AutoCAD ファイル バージョンをリストから選択します。また、出力に DWG または DXF のいずれにするかを選択します。

6. ログ ファイルを設定します。ユニバーサル トランスレータは、ログ ファイルを自動的に作成し、変換プロセスを文書化します。変換に失敗した場合、最初にログを調べて失敗の原因を判断します。

- a. このログ ファイルの名前および場所を [ログ ファイルの書き出し] フィールドに入力します。デフォルトの場所は、現在の temp ディレクトリで、ファイル名は mutlog.txt

(C:\temp\mutlog.txt) です。 ボタンをクリックして、このログ ファイルとして別の名前やパスを選択することもできます。

- b. 既存のログ ファイルに追加するには、[ログ ファイルに追加] チェック ボックスをオンにします。これにより、この変換のログ エントリは前のログ エントリの最後に追加されます。このチェック ボックスをオンにしなかった場合、ユニバーサル トランスレータは前のログ エントリを上書きします。このステップは省略できます。

メモ 既存のログを表示するには、[ログを表示] ボタンをクリックします。

7. [OK] をクリックして変換処理を開始します。

[ユニバーサル トランスレータ] ダイアログ ボックスの詳細については、次のセクションの「[ユニバーサル トランスレータ] ダイアログ ボックスについて」を参照してください。ユニバーサル トランスレータ ヘルプ システムには、このセクションで説明する他のダイアログ ボックスの詳細が含まれています。これらの説明により、複雑な変換処理を理解することができます。キーボードの F1 ヘルプ キーを押すと、アクティブなユニバーサル トランスレータ ダイアログ ボックスに対するヘルプが表示されます。

[ユニバーサル トランスレータ] ダイアログ ボックスについて


このセクションでは、[ユニバーサル トランスレータ] ダイアログ ボックスの各フィールドについて詳しく説明します。

ソース形式

[フォーマット] のドロップ ダウン リストを使用して、フォーマットのリストを表示します。変換するデータセットのソース形式を選択します。入力データセットのフォーマットが **MicroStation Design** である場合は、[設定] ボタンが有効になります。このボタンをクリックし、[デザイン ファイル入力設定] ダイアログ ボックスを表示します。適切な座標単位を選択します。

- Master
- Sub
- UOR

ファイル

変換するファイルを入力するか、 をクリックして [入力ファイルの選択] ダイアログ ボックスを表示します。[入力ファイルの選択] ダイアログ ボックスで、ファイルを選択します。[AutoCAD] を選択した場合、トランスレータはデフォルトで DWG フォーマットを使用します。

ソース ファイルの投影法を使用

このオプションは、Shape ファイル形式を選択した場合に使用できます。このチェック ボックスをオンにすると、同じディレクトリに Shape ファイルに関連する *.prj ファイルが存在する場合は、ユニバーサル トランスレータは、その *.prj ファイルから対応する MapInfo Professional 投影法を自動的に検索し、その投影法で .TAB/.MIF ファイルを作成します。対応する投影法が存在しない場合は、カスタム投影法エントリを MAPINFOW.PRJ ファイル内に事前に作成しておくことができます (詳細については『MapInfo Professional ユーザーズ ガイド』を参照)。

このチェック ボックスをオンにしなかった場合、.TAB/.MIF ファイルはデフォルトで一般座標系 (メートル) で作成されます。[投影法] ボタンをクリックして、変換後の .TAB または .MIF/.MID ファイルに適用する別の投影法を選択することもできます。

[投影法] ボタン

AutoCAD DWG/DXF、ESRI ArcInfo Export (E00)、ESRI Shape ファイル (SHP)、MicroStation Design (DGN)、または Vector Product Format (VPF) 形式を選択した場合に使用できます。[投影法の選択] ダイアログ ボックスを表示します。変換後の .TAB または .MIF/.MID ファイルに適用する投影法を選択します。

MapInfo .TAB、.MIF、.MID、または SDTS 形式のファイルには、座標系に関する情報が含まれているため、これらのファイルを選択した場合は、「ソースから読み込み」と表示されます。Shape ファイル、AutoCAD、Intergraph、または VPF のファイルを選択した場合は、座標系を指定してください。座標系を指定しない場合は、ユニバーサル トランスレータはデフォルトの一般座標系 (メートル) を使用します。

メモ 誤った座標系を指定した場合は、エラーが発生するか、またはデータが誤った場所に変換されたり、まったく変換されなかったりします。ユニバーサル トランスレータは、ある投影法から別の投影法へと座標を変換することはしませんので、データに対応する投影法が選択されていることを確認してください。この投影法の情報は、ソース ファイルのメタデータに含まれているか、その作成者から得ることができます。

入力ファイルでの MapInfo フォーマットへの適切な変換に使用される投影法/座標系に関して、説明的な情報やメタデータを入手するには、販売店またはこのデータの最初の作成者に連絡してください。



を選択して、[投影法の選択] ダイアログ ボックスを表示します。

分類

[分類] のドロップ ダウン リストから、投影法を選択します。

投影法


[投影法] のドロップ ダウン リストから適切な座標単位を選択します。

出力先形式

変換済みファイルのフォーマットを選択します。

メモ MapInfo .TAB へと変換する場合、MapInfo テーブルは、そのテーブルに含まれる機能や属性データ (新しい投影法や Date¥Time データなど) を、変換後に開いたり使用したりすることができるバージョンで作成されます。

ディレクトリ


変換済みファイルの出力先を入力するか、 をクリックして [ディレクトリの選択] ダイアログ ボックスを表示し、出力先ファイルの名前とパスを指定します。

ソース ファイルが MapInfo フォーマットであり、出力先ファイルが AutoCAD である場合は、[設定] ボタンが表示されます。このボタンをクリックして、[AutoCAD 出力ファイルの設定] ダイアログ ボックスを表示し、適切な AutoCAD バージョンを選択します。

ログ

ユニバーサル トランスレータは、ログ ファイルを自動的に作成し、変換プロセスを文書化します。変換に失敗した場合、最初にログを調べて失敗の原因を判断します。

ログ ファイルの書き出し

ログ ファイルのファイル名と場所を指定します。デフォルトのファイル名は mutlog.txt で、場所は、Windows システムで設定された、ユーザの一時ファイルディレクトリです。 をクリックして、ログ ファイルとして別の名前とパスを指定することもできます。

ログ ファイルに追加

このチェック ボックスをオンにすると、新しい変換によるログ エントリが、以前のログ エントリに追加されます。このチェック ボックスをオンにしなかった場合は、新しいログが作成され、以前のログ エントリは上書きされます。

ユニバーサル トランスレータの使用に関する注意事項

- 正しい結果を得るには、変換するデータが使用するシステムの言語で記述されている必要があります。
- このバージョンは、2 バイト文字セットに対応しています。最新の Shape ファイル形式をサポートし、更新された AutoCAD メタファイルおよび Intergraph メタファイルをサポートします。
- ユニバーサル トランスレータは、3 次元の Intergraph DGN ファイルおよび 3 次元の AutoCAD DWG/DXF ファイルを正式にはサポートしていません。これらのファイルを用いた変換は、予期せぬ結果となる恐れがあります。
- MapInfo Professional の DXF インポートとは異なり、ユニバーサル トランスレータは、座標変換を行いません。

- DWG/DXF から .TAB/.MIF へと変換する場合、ユニバーサル トランスレータは、AutoCAD メッシュを変換しません。
- DWG/DXF または DGN を変換する場合、トランスレータは、ラインの色やフォント タイプなどの表示属性を一致させることはしません。
- ユニバーサル トランスレータは、UNC パスをサポートしません。
- Shape ファイルから .TAB ファイルへと変換する場合、ユニバーサル トランスレータは、空のフィールドに以下のデフォルト値を設定します。
 - a. 幅が 1 文字の空の数値フィールドには、0 (ゼロ) を設定します。
 - b. 幅が 2 文字の空の数値フィールドには、-9 を設定します。
 - c. 幅が 3 文字の空の数値フィールドには、-99 を設定します。
 - d. 幅が 4 文字の空の数値フィールドには、-999 を設定します。
 - e. 幅が 5 文字以上の空の数値フィールドには、-9999 を設定します。

単一のファイルを変換する場合、ファイルの種類によっては変換済みファイルが複数になることがあります。

仮想メモリ: DWG/DXF への変換、または DWG/DXF からの変換の場合、仮想メモリ不足が生じる可能性があります。その場合、それを示すエラーメッセージが表示されます。

コマンドラインからのユニバーサル トランスレータの使用

ここでは、ユニバーサル トランスレータをコマンドライン モードで実行するための構文とパラメータについて説明します。以下に示されているのは、Pitney Bowes Business Insight によってサポートされているテスト済みのパラメータのみです。ここに示されていないその他のコマンドラインパラメータはサポートしていません。それらのパラメータについては、SAFE Software, Inc にお問い合わせください。ユニバーサル トランスレータは、SAFE Software を除く、完全な FME トランスレータの構文を使用します。以下の例で使用されているコマンドは、MapInfo Professional で提供されているユニバーサル トランスレータ GUI から実行できるものと同じ機能を実行します。MapBasic プログラミング言語における使用例も示されています。

すべての例において、パス名は、各ユーザが使用するシステムに実際に存在するパス名に置き換えてください。また、ネイティブな .TAB ファイルではなく .MIF ファイルが必要な場合は、コマンドラインにおいて MAPINFO と記述されている箇所をすべて、.MIF に置き換えてください。

以下のコマンドライン例では、DOS プロンプトが、実行形式ファイル IMUT.exe が存在するディレクトリで起動されていると仮定します。また、実行する各コマンドに対するパラメータはすべて、連続した 1 行に記述する必要があります。

変換は、2 段階で実施されます。トランスレータは、以下の処理を行います。

1. 変換を制御するためのセマンティック制御スクリプトまたはマッピング ファイル スクリプトを作成します。
2. 作成したマッピング ファイルを用いて変換を実行します。

構文に関する重要事項:

- Yes が設定されている箇所には、No を指定してその動作をオフにすることもできます。
- DestDataset は出力先を示し、SourceDataset は入力を読み込む場所を指定します。
- ログ ファイルは、各段階において作成することができます。

- MapInfo CoordSys 句など引用符に囲まれた文字列は、以下の例に示すように、エスケープ文字を用いて引き渡す必要があります。

CoordSys Earth Projection 10, 104, ¥"m¥", 0** MapBasic では、特定のマップ単位を含む CoordSys 文字列を、以下のようにして IMUT に引き渡すことができます。"CoordSys Earth Projection 10, 104," + chr\$(92) + chr\$(34) + "m" + chr\$(92) + chr\$(34) + ", 0** ¥" という文字に対し ASCII 文字コード chr\$(92)、引用符に囲まれた文字列のエスケープに chr\$(34) が使用されています。

コマンドラインを用いたデータのインポート

このセクションでは、MapInfo Professional に、他のデータ ソース形式のデータをインポートする方法について説明します。

メモ 重要: 本書では、MapInfo Professional のユニバーサル トランスレータ MBX で使用される機能のみを取り上げます。このマニュアルに記載されていないコマンドラインパラメータについては、Pitney Bowes Business Insight Corporation はテストを実施しておらず、したがってサポートしていません。それらのコマンドラインパラメータのサポートと、予期せぬ結果が生じた場合の対処については、SAFE Software, Inc にお問い合わせください。

AutoCAD DWG および DXF 形式のデータのインポート

コマンドラインから AutoCAD DWG および DXF 形式のデータを MapInfo .TAB ファイルにインポートするには、以下の手順に従ってください。

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

```
Imut.exe CFGenerate autocadScan MAPINFO "D:¥test.dwg" "C:¥Temp¥mapping.fme"
LOG_STANDARDOUT YES LOG_FILENAME "C:¥Temp¥mutlog.txt" LOG_APPEND "NO" --
Source_EXPAND_BLOCKS "yes" --Source_ATTR "autocad_attributes" --Source_ATTRKIND
"extended_entity_data" --LAYERBASENAME "test"
```

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

CFGenerate - セマンティック制御ファイルを作成するコマンド

autocadScan - 入力形式が AutoCAD 形式ファイルであることを示します。

MAPINFO - 出力形式が MapInfo .TAB であることを示します。出力ファイル形式が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

"D:¥test.dwg" - 入力 AutoCAD ファイルのパスとファイル名

"C:¥Temp¥mapping.fme" - セマンティック制御ファイルのパスとファイル名。任意の接頭辞を付けることができます。

LOG_STANDARDOUT - 変換中にテキスト ログ ファイルを作成します (Yes または No)。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

- Source_EXPAND_BLOCKS - デフォルトでは、ユニバーサル トランスレータは、AutoCAD ファイルのブロックを展開します (Yes または No)。デフォルトは Yes です。
- Source_ATTR - "autocad_attributes" - AutoCAD 属性の処理
- Source_ATTRKIND - "extended_entity_data" - AutoCAD ファイル内の拡張エンティティの処理
- LAYERBASENAME - 作成されるすべての .TAB ファイル名に付ける接頭辞 (オプション)

メモ ** LAYERBASENAME 引数は、出力されるすべての MapInfo テーブル名に付けられる接頭辞で、この設定は任意です。通常は、ソースの DWG ファイルのルート名を指定します。

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe "C:\Temp\mapping.fme" --SourceDataset "D:\test.dwg" --DestDataset "C:\output" --
_EXPAND_BLOCKS yes --_ATTRKIND extended_entity_data --_EXTENSION dwg --_BASENAME test --
_FULLBASENAME test MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT "CoordSys Earth Projection 10, 104,
m", 0"
```

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:\Temp\mapping.fme" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

- SourceDataset "D:\test.dwg" - 変換する入力ファイルのパスとファイル名
- DestDataset "C:\output" - 作成される出力のパスとフォルダ名
- _EXPAND_BLOCKS - 上述の Source_EXPAND_BLOCKS と同じ (Yes または No)。
- _ATTRKIND - 上述の Source_ATTRKIND と同じ (extended_entity_data)。
- _EXTENSION - 入力形式の拡張子 (DWG および DXF は、有効な AutoCAD 形式の拡張子です)。大文字小文字は区別されません。
- _BASENAME - 作成される出力ファイルの名前。LAYERBASENAME と同じでもかまいません。
- _FULLBASENAME - LAYERBASENAME と同じでもかまいません。

MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT - オプション パラメータ (省略可能)。出力される .TAB\MIF\MID ファイルに適用する CoordSys 句。IMUT は、異なる座標系/投影法に変換されたデータを再投影することはせず、引き渡された CoordSys 句を、出力する TAB\MIF ファイルに適用します。指定された CoordSys が変換されるデータに適したものであることを確認してください。出力 TAB\MIF ファイルは、デフォルトで、Shape ファイルの *.prj ファイル (同じディレクトリに存在する場合) に指定された投影法を使用します。CoordSys 句が引き渡されず、.SHP ファイルの *.prj ファイルが存在しない場合は、一般座標系 (メートル) を使用します。

MicroStation DGN 形式のデータのインポート

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

```
Imut.exe Generate design .MIF "C:\test.dgn" "C:\Temp\mapping.fme" LOG_STANDARDOUT YES --
Source_IGDS_MSLINKS "no" --Source_XPNDCELL "yes" --Source_PRESERVE_CELL_INSERTS "no" --
SourceSPLIT_MULTITEXT "yes" --Source_PROPAGATE "no" --Source_DROP_COMPLEX "no" --
Source_TEXTTAGS "yes" --Source_IN_UNITS "IGDS_MASTER_UNITS" --
Source_USE_LEVEL_NAMES "no" +MERGE_SCHEMAS YES
```

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

Generate - セマンティック制御ファイルを作成するユニバーサル トランスレータ コマンド

design - 入力形式を MicroStation に設定します。

DGNMAPINFO - 出力形式を MapInfo .TAB に設定します。出力形式が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

"C:¥test.dgn" - 入力 MicroStation DGN ファイルのパスとファイル名

"C:¥Temp¥mapping.fme" - セマンティック マッピング ¥制御ファイルのパスと名前

LOG_STANDARDOUT - 変換に対するテキスト ログファイルを出力します (Yes または No)。LOG_FILENAME パラメータとともに指定して、ファイルを作成します。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

- Source_IGDS_MSLINKS - DGN ファイルの中の MSLINKS をサポートします (Yes または No)。
- Source_XPNDCELL - セル要素を展開します (Yes または No)。
- Source_PRESERVE_CELL_INSERTS - セルの挿入ポイントを保持します (Yes または No)。セル要素が展開されている場合のみ指定できます。
- SourceSPLIT_MULTITEXT - マルチ テキストを分割します (Yes または No)。デフォルトは Yes です。
- Source_PROPAGATE - チェーン構成要素のリンケージを伝播します (Yes または No)。複雑な要素を破棄しない場合に適用されます。
- Source_DROP_COMPLEX - 読み込み中に複雑なチェーンを破棄します (Yes または No)。デフォルトは No です。
- Source_TEXTTAGS - ソース ファイルの読み込み時にタグ要素をテキストとして出力します (Yes または No)。デフォルトは Yes です。
- Source_IN_UNITS - デザイン ファイルから読み込んだすべての FME 座標の解釈方法を制御します。

有効な値は、以下の通りです。

IGDS_MASTER_UNITS - FME 座標の単位は、Master として処理されます。これがデフォルトとなります。

IGDS_SUB_UNITS - FME 座標の単位は、Sub として処理されます。

IGDS_UORS - FME 座標の単位は、UOR として処理されます。

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe C:¥Temp¥mapping.fme --SourceDataset "C:¥test.dgn" --DestDataset "C:¥output" --_XPNDCELL
yes --_IN_UNITS IGDS_MASTER_UNITS --_EXTENSION dgn --_BASENAME filename --
_FULLBASENAME filename MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT "CoordSys Earth Projection 11, 104,
¥"m¥", 0"
```

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:¥Temp¥mapping.fme" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

- SourceDataset "D:¥test.dgn" - 変換する入力ファイルのパスとファイル名
- DestDataset "C:¥output" - 作成される出力のパスとフォルダ名
- _XPNDCELL - ステップ 1 の Source_XPNDCELL パラメータと同じ (Yes または No)。
- _IN_UNITS - ステップ 1 の Source_IN_UNITS パラメータと同じ (デフォルトは IGDS_MASTER_UNITS)。
- _EXTENSION - 入力ファイル形式の拡張子 (DGN)
- _BASENAME - 作成される出力ファイルの名前。 LAYERBASENAME と同じでもかまいません。
- _FULLBASENAME - LAYERBASENAME と同じでもかまいません。
- MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT - オプションパラメータ (省略可能)。出力される .TAB¥.MIF¥.MID ファイルに適用する CoordSys 句。ユニバーサル トランスレータは、異なる座標系/投影法に変換されたデータを再投影することはせず、引き渡された CoordSys 句を、出力する .TAB¥.MIF ファイルに適用します。したがって使用する座標系が、変換するデータに適したものであることを確認してください。CoordSys 句が引き渡されなかった場合は、出力 .TAB¥.MIF ファイルは、デフォルトで一般座標系 (メートル) を使用します。

E00 形式のデータのインポート

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

Imut.exe CFGenerate E00 MAPINFO "C:¥temp¥polygon.e00" "C:¥Temp¥mapping.fme"

LOG_STANDARDOUT YES LOG_FILENAME "C:¥Temp¥mutlog.txt" LOG_APPEND "NO"

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

CFGenerate - セマンティック制御ファイルを作成するコマンド

E00 - 入力形式を ArcInfo Export 形式に設定します。

MAPINFO - 出力形式を MapInfo .TAB に設定します。出力形式が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

"C:¥temp¥polygon.e00" - 入力 ArcInfo .E00 ファイルのパスとファイル名

"C:¥Temp¥mapping.fme" - セマンティック マッピング ¥制御ファイルのパスと名前

LOG_STANDARDOUT - 変換に対するテキスト ログファイルを出力します (Yes または No)。

LOG_FILENAME パラメータとともに指定して、ファイルを作成します。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe "C:¥Temp¥mapping.fme" --SourceDataset "C:¥temp¥polygon.e00" --DestDataset "C:¥temp" --
_EXTENSION e00 --_BASENAME polygon --_FULLBASENAME polygon
MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT "CoordSys Earth Projection 1, 104"
```

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:¥Temp¥mapping.fme" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

- SourceDataset "c:¥temp¥polygon.e00" - 変換する入力ファイルのパスとファイル名
- DestDataset "C:¥temp" - 作成される出力のパスとフォルダ名
- _EXTENSION - 入力ファイル形式の拡張子 (.E00)
- _BASENAME - 作成される出力ファイルの名前。LAYERBASENAME と同じでもかまいません。
- _FULLBASENAME - LAYERBASENAME と同じでもかまいません。

MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT - オプション パラメータ (省略可能)。出力される

.TAB¥.MIF¥.MID ファイルに適用する CoordSys 句。ユニバーサル トランスレータは、異なる座標系/投影法に変換されたデータを再投影することはありません。引き渡された CoordSys 句を、出力する .TAB¥.MIF ファイルに適用します。したがって指定された CoordSys が、変換するデータに適したものであることを確認してください。CoordSys 句が引き渡されなかった場合は、出力 .TAB¥.MIF ファイルは、デフォルトで一般座標系 (メートル) を使用します。

Shape ファイル形式のデータのインポート

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

```
Imut.exe CFGenerate SHAPE MAPINFO "C:¥temp¥poly.shp" "C:¥Temp¥mapping.fme"
LOG_STANDARDOUT YES LOG_FILENAME "C:¥Temp¥mutlog.txt" LOG_APPEND "NO"
```

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

CFGenerate - セマンティック制御ファイルを作成するコマンド

SHAPE - 入力形式を ESRI Shape ファイル形式に設定します。

MAPINFO - 出力形式を MapInfo .TAB に設定します。出力形式が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

"C:¥temp¥poly.shp" - 入力 ESRI Shape ファイルのパスとファイル名

"C:¥temp¥mapping.fme" - セマンティック マッピング ¥ 制御ファイルのパスと名前

LOG_STANDARDOUT - 変換に対するテキスト ログファイルを出力します (Yes または No)。
LOG_FILENAME パラメータとともに指定して、ファイルを作成します。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe "C:¥Temp¥mapping.fme" --SourceDataset "C:¥temp¥poly.shp" --DestDataset "C:¥temp" --  
_EXTENSION shp --_BASENAME filename--_FULLBASENAME filename
```

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:¥Temp¥mapping.fme" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

- SourceDataset "c:¥temp¥poly.shp" - 変換する入力ファイルのパスとファイル名
- DestDataset "C:¥temp" - 作成される出力のパスとフォルダ名
- _EXTENSION - 入力ファイル形式の拡張子 (Shape ファイル)
- _BASENAME - 作成される出力ファイルの名前。LAYERBASENAME と同じでもかまいません。
- _FULLBASENAME - LAYERBASENAME と同じでもかまいません。

MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT - オプション パラメータ (省略可能)。出力される .TAB¥.MIF¥.MID ファイルに適用する CoordSys 句。ユニバーサル トランスレータは、異なる座標系/投影法に変換されたデータを再投影することはありません。出力 TAB¥MIF ファイルは、デフォルトで、Shape ファイルの *.prj ファイル (同じディレクトリに存在する場合) に指定された投影法を使用します。CoordSys 句が引き渡されず、.SHP ファイルの *.prj ファイルが存在しない場合は、一般座標系 (メートル) を使用します。

SDTS 形式のデータのインポート

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

```
Imut.exe Generate SDTS MAPINFO "C:¥Temp¥TR01CATD.DDF" "C:¥Temp¥mapping.fme"  
LOG_STANDARDOUT YES LOG_FILENAME "C:¥Temp¥mutlog.txt" LOG_APPEND "NO"
```

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

Generate - セマンティック制御ファイルを作成するコマンド

SHAPE - 入力形式を Spatial Data Transfer Standard (SDTS) に設定します。

MAPINFO - 出力形式を MapInfo .TAB に設定します。出力形式が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

"C:¥temp¥TR01CATD.DDF" - 変換する SDTS アーカイブのパスとファイル名 (****CATD.DDF)

"C:¥temp¥mapping.fme" - セマンティック マッピング ¥制御ファイルのパスと名前

LOG_STANDARDOUT - 変換に対するテキスト ログファイルを出力します (Yes または No)。

LOG_FILENAME パラメータとともに指定して、ファイルを作成します。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe "C:¥Temp¥mapping.fme" --SourceDataset "C:¥Temp¥TR01CATD.DDF" --DestDataset "C:¥Temp"
```

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:¥Temp¥mapping.fme" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

- SourceDataset "C:¥Temp¥TR01CATD.DDF" - 変換する SDTS アーカイブからの入力ファイルのパスとファイル名
- DestDataset "C:¥temp" - 作成される出力のパスとフォルダ名

**MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT が指定されていない場合は、入力 SDTS ファイルから直接 CoordSys を読み込みます。

VPF 形式のデータのインポート

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

```
Imut.exe Generate VPF MAPINFO "C:¥input¥NAV" "C:¥Temp¥mapping.fme" LOG_STANDARDOUT
YES LOG_FILENAME "C:¥Temp¥Mutlog.txt" LOG_APPEND "NO" +ID "BUOYBCNP"
```

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

Generate - セマンティック制御ファイルを作成するコマンド

VPF - 入力形式を Vector Product Format (VPF) に設定します。

MAPINFO - 出力形式を MapInfo .TAB に設定します。出力形式が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

"C:¥input¥NAV" - 変換する VPF アーカイブのパスとフォルダ

"C:¥temp¥mapping.fme" - セマンティック マッピング ¥ 制御ファイルのパスと名前

LOG_STANDARDOUT - 変換に対するテキスト ログファイルを出力します (Yes または No)。
LOG_FILENAME パラメータとともに指定して、ファイルを作成します。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

+ID "BUOYBCNP" - 変換する VPF アーカイブのレイヤ名 (ID)

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe "C:¥Temp¥mapping.fme" --SourceDataset "C:¥input¥NAV" --DestDataset "C:¥output"
MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT "CoordSys Earth Projection 1, 104"
```

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:¥Temp¥mapping.fme" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

- SourceDataset "C:¥input¥NAV" - 変換する VPF アーカイブのパスとフォルダ名
- DestDataset "C:¥output" - 作成される出力のパスとフォルダ名

MAPINFO_COORDSYS_STATEMENT - オプション パラメータ (省略可能)。出力される

.TAB¥.MIF¥.MID ファイルに適用する CoordSys 句。ユニバーサル トランスレータは、異なる座標系/投影法に変換されたデータを再投影することはしません。引き渡された CoordSys 句を、出力する .TAB¥.MIF ファイルに適用します。したがって指定された CoordSys が、変換するデータに適したものであることを確認してください。CoordSys 句が引き渡されなかった場合は、出力 .TAB¥.MIF ファイルは、デフォルトで一般座標系 (メートル) を使用します。

メモ VPF データは通常、緯度/経度 (WGS84) で作成されます。

コマンドラインを用いたデータのエクスポート

このセクションでは、MapInfo Professional から他のデータ形式に、データをエクスポートする方法について説明します。

DWG または DXF 形式へのデータのエクスポート

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

```
Imut.exe CFGenerate MAPINFO DWG "D:¥MapInfo¥Regions.tab" "C:¥temp¥mapping.fme"  
LOG_STANDARDOUT YES LOG_FILENAME "C:¥temp¥mutlog.txt" LOG_APPEND "NO" --Dest_ATTR  
"autocad_attributes" --Dest_ATTRKIND "extended_entity_data" --Dest_REL "Release2000"
```

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

CFGenerate - セマンティック制御ファイルを作成するコマンド

MAPINFO - 入力形式が MapInfo .TAB であることを示します。入力ファイルの拡張子が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

DWG - 出力形式が AutoCAD DWG フォーマットであることを示します。AutoCAD DXF フォーマットでの出力が必要な場合は、"DXF" を指定してください。

"D:¥MapInfo¥Regions.tab" - 入力 MapInfo .TAB または .MIF¥.MID ファイルのパスとファイル名

"C:¥Temp¥mapping.fme" - セマンティック制御ファイルのパスとファイル名。任意の接頭辞を付けることができます。

LOG_STANDARDOUT - 変換中にテキスト ログ ファイルを作成します (Yes または No)。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

- Dest_ATTR "autocad_attributes" - 出力ファイルに AutoCAD 属性を作成します。
- Dest_ATTRKIND "extended_entity_data" - AutoCAD ファイルに拡張エンティティを作成します。
- Dest_REL "Release2000" - 作成される AutoCAD ファイルのリリースバージョン

メモ Dest_REL パラメータとしては、Release11、Release12、Release13、Release14、Release2000、Release2004 のいずれかを指定できます。

*** AutoCAD Release 2002 形式は、Release 2000 と同一で、AutoCAD Release 2005 および 2006 は、Release 2004 と同一です。

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe "C:¥Temp¥mapping.fme" SourceDataset "D:¥MapInfo¥Regions.tab" --DestDataset
"C:¥temp¥output.dwg" --_ATTRKIND extended_entity_data --_REL Release2000 --_EXTENSION TAB --
_BASENAME Regions --_FULLBASENAME Regions
```

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:¥Temp¥mapping.fme" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

- SourceDataset "D:¥MapInfo¥Regions.tab" - 変換する MapInfo .TAB ファイルのパスとファイル名
- DestDataset "C:¥temp¥output.dwg" - 作成される出力 AutoCAD ファイルのパスとフォルダ名
- _ATTRKIND extended_entity_data - AutoCAD ファイルに拡張エンティティを作成します。
- _REL Release2000 - リリース 2000 の AutoCAD ファイルを作成します。有効なリリースバージョンについては、上記の注意を参照してください。
- _EXTENSION TAB - 入力形式の拡張子 (TAB または .MIF のみ指定可能)
- _BASENAME - 作成される出力ファイルの名前。入力ファイル名と同じでもかまいません。
- _FULLBASENAME - 入力ファイル名と同じでもかまいません。

*** CoordSys は、.TAB または .MIF ファイルから直接読み込まれるため、MapInfo CoordSys は必要ありません。

E00 形式へのデータのエクスポート

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

```
Imut.exe CFGenerate MAPINFO E00 "D:¥MapInfo¥Regions.tab" "C:¥Temp¥Mapping.fme"
LOG_STANDARDOUT YES LOG_FILENAME "C:¥Temp¥mutlog.txt" LOG_APPEND "NO" --
Dest_PRECISION "Double" --Dest_COMPRESSION "NONE"
```

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

CFGenerate - セマンティック制御ファイルを作成するコマンド

MAPINFO - 入力形式が MapInfo .TAB であることを示します。入力ファイルの拡張子が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

E00 - 出力形式が ArcInfo Export 形式であることを示します。

"D:¥MapInfo¥Regions.tab" - 入力 MapInfo .TAB または .MIF¥.MID ファイルのパスとファイル名

"C:¥Temp¥mapping.fme" - セマンティック制御ファイルのパスとファイル名。任意の接頭辞を付けることができます。

LOG_STANDARDOUT - 変換中にテキスト ログ ファイルを作成します (Yes または No)。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

Dest_PRECISION - 生成される .E00 ファイルの精度。"Single" または "Double" を指定することができます。デフォルトは "Double" です。

Dest_COMPRESSION - .E00 ファイルの圧縮。"FULL"、"PARTIAL"、"NONE" のいずれかを指定できます。デフォルトは "NONE" です。

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe "C:¥Temp¥mapping.fme" --SourceDataset "D:¥MapInfo¥Regions.tab" --DestDataset "C:¥Temp¥output" --_PRECISION Double --_COMPRESSION NONE --_EXTENSION TAB --_BASENAME Regions --_FULLBASENAME Regions
```

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:¥TEMP¥MAPPING.FME" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

SourceDataset "D:¥MapInfo¥Regions.tab" - 変換する MapInfo .TAB ファイルのパスとファイル名

DestDataset "C:¥Temp¥output" - 作成される出力 .E00 ファイルのパスとフォルダ名

- _PRECISION - エクスポート ファイルの内部精度。"Single" または "Double" を指定することができます。デフォルトは "Double" です。
- _COMPRESSION - 作成される .E00 ファイルの圧縮率。"FULL"、"PARTIAL"、"NONE" のいずれかを指定できます。デフォルトは "NONE" です。
- _EXTENSION - 入力ファイルの拡張子を、MapInfo .TAB に設定します。入力ファイルの拡張子が .MIF¥.MID である場合は、".MIF"を指定してください。
- _BASENAME - 作成される出力ファイルの名前。入力ファイル名と同じでもかまいません。
- _FULLBASENAME - 入力ファイル名と同じでもかまいません。

*** CoordSys は、.TAB または .MIF ファイルから直接読み込まれるため、MapInfo CoordSys は必要ありません。

Shape ファイル形式へのデータのエクスポート

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

```
Imut.exe CFGenerate MAPINFO SHAPE "D:¥MapInfo¥Regions.tab" "C:¥Temp¥Mapping.fme"
LOG_STANDARDOUT YES LOG_FILEN
```

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

CFGenerate - セマンティック制御ファイルを作成するコマンド

MAPINFO - 入力形式が MapInfo .TAB であることを示します。入力形式が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

SHAPE - 出力形式が ESRI Shape ファイル形式であることを示します。

"D:¥MapInfo¥Regions.tab" - 入力 MapInfo .TAB または .MIF¥.MID ファイルのパスとファイル名

"C:¥Temp¥mapping.fme" - セマンティック制御ファイルのパスとファイル名。任意の接頭辞を付けることができます。

LOG_STANDARDOUT - 変換中にテキスト ログ ファイルを作成します (Yes または No)。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe "C:¥Temp¥mapping.fme" --HOMOGENOUS_GEOMETRY yes --_SHAPE_FILE_TYPE 2d --
SourceDataset "D:¥MapInfo¥Regions.tab" --DestDataset "C:¥Temp¥output" --_EXTENSION TAB --
_BASENAME Regions --_FULLBASENAME Regions
```

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:¥Temp¥mapping.fme" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

HOMOGENOUS_GEOMETRY - 同種ジオメトリ設定を Yes にします。これがデフォルトとなります (Yes または No を指定することができます)。MapInfo .TAB¥.MIF ファイルには、複数のオブジェクト タイプを混在させることができますが、Shape ファイルには混在させることはできません。このオプションを Yes に設定すると、.TAB ファイル内に存在する、サポートされている各オブジェクト タイプに対し、それを含む Shape ファイルがそれぞれ別個に作成されます。

_SHAPE_FILE_TYPE - Shape ファイル タイプを 2D に設定します。これがデフォルトとなります。この他に、"2dm" (2 Dimensional with measures) または "3dm" (3 Dimensional with measures) を指定することができます。

SourceDataset "D:¥MapInfo¥Regions.tab" - 変換する MapInfo .TAB ファイルのパスとファイル名

DestDataset "C:¥Temp¥output" - 作成される出力 .E00 ファイルのパスとフォルダ名

- `_EXTENSION` - 入力ファイルの拡張子を、MapInfo .TAB に設定します。入力ファイル形式が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。
 - `_BASENAME` - 作成される出力ファイルの名前。入力ファイル名と同じでもかまいません。
 - `_FULLBASENAME` - 入力ファイル名と同じでもかまいません。
- *** 座標系は、.TAB または .MIF ファイルから直接読み込まれるため、MapInfo CoordSys は必要ありません。

DGN 形式へのデータのエクスポート

ステップ 1) マッピング ファイルを作成します。

```
Imut.exe CFGenerate MAPINFO IGDS "D:¥MapInfo¥cy.tab" "C:¥Temp¥mapping.fme"  
LOG_STANDARDOUT YES LOG_STANDARDOUT YES LOG_FILENAME "C:¥Temp¥mutlog.txt"  
LOG_APPEND "NO" --Dest_TYPE3 "yes" --Dest_OUT_UNITS "IGDS_MASTER_UNITS" --Dest_SEED  
"C:¥Program Files¥MapInfo¥Professional¥Ut¥design¥seed2d_m_v8.dgn"
```

マッピング ファイルのパラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータのアプリケーション名。DOS プロンプトから起動されていると想定して動作するため、このファイルへのパスを設定する必要があります。

CFGenerate - セマンティック制御ファイルを作成するコマンド

MAPINFO - 入力形式が MapInfo .TAB であることを示します。入力形式が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

IGDS - 出力形式が MicroStation Design (DGN) ファイル形式であることを示します。

"D:¥MapInfo¥Regions.tab" - 入力 MapInfo .TAB または .MIF¥.MID ファイルのパスとファイル名

"C:¥Temp¥mapping.fme" - セマンティック制御ファイルのパスとファイル名。任意の接頭辞を付けることができます。

LOG_STANDARDOUT - 変換中にテキスト ログ ファイルを作成します (Yes または No)。

LOG_FILENAME - 作成するログファイルのパスとファイル名

LOG_APPEND - 後続の変換におけるログファイル結果を追加します (Yes または No)。デフォルトは No です。

- `Dest_TYPE3` - 2 ポイントラインに対し、タイプ 3 の要素を作成することを許可します (Yes または No)。デフォルトは Yes です。
- `Dest_OUT_UNITS` - ユニバーサル トランスレータが、Design ファイルに出力された座標を処理する方法を指定します。

有効な値は、以下の通りです。

- `IGDS_MASTER_UNITS` - 座標の単位は、Master として処理されます。これがデフォルトとなります。
- `IGDS_SUB_UNITS` - 座標の単位は、Sub として処理されます。
- `IGDS_UORS` - 座標の単位は、UOR として処理されます。

- Dest_SEED - ユニバーサル トランスレータが使用するシードファイルのパスとファイル名
- メモ MapInfo ユニバーサル トランスレータは、デフォルトでシード ファイル seed2d_m_v8.dgn を使用して、MicroStation バージョン 8 の DGN ファイルを出力します。MicroStation バージョン 7 の DGN ファイルが必要な場合は、"seed2d_m.dgn" を使用するようにシード ファイルを設定します。他のシード ファイルを用いて出力を作成する場合は、SAFE が提供する ¥design フォルダを検索してください。ただし、Pitney Bowes Business Insight ではそれらのファイルのテストを実施しておりませんので、出力結果は不明であり、サポートされません。それらのファイルの使用によって生じた問題については、SAFE にお問い合わせください。

MapInfo ユニバーサル トランスレータでは、以下の MicroStation Seed ファイルが ¥UT¥design フォルダの下に同梱されています。

- bcutm3d.dgn
- bcutm2d.dgn
- seed2d_ft.dgn
- seed2d_ft_v8.dgn
- seed2d_m_v8.dgn
- seed2d_m.dgn
- seed3d_ft.dgn
- seed3d_ft_v8.dgn
- seed3d_m.dgn
- seed3d_m_v8.dgn
- seed_ll.dgn.

ステップ 2) マッピング ファイルを実行して、変換を行います。

```
Imut.exe "C:¥Temp¥mapping.fme" - SourceDataset "D:¥MapInfo¥Regions.tab" - DestDataset "C:¥Temp¥output.dgn" --_TYPE3 YES
```

- _OUT_UNITS IGDS_MASTER_UNITS - _SEED "C:¥Program Files¥MapInfo¥Professional¥Ut¥design¥seed2d_m_v8.dgn"
- _EXTENSION .TAB - _BASENAME Regions --_FULLBASENAME Regions

変換パラメータについて

Imut.exe - MapInfo ユニバーサル トランスレータの実行形式ファイルの名前

"C:¥Temp¥mapping.fme" - ステップ 1 で作成されたセマンティック制御ファイルのパスとファイル名

SourceDataset "D:¥MapInfo¥Regions.tab" - 変換する MapInfo .TAB ファイルのパスとファイル名

DestDataset "C:¥Temp¥output.dgn" - 作成される出力 DGN ファイルのパスとファイル名

- _TYPE3 - 2 ポイント ラインに対し、タイプ 3 の要素を作成することを許可します (Yes または No)。デフォルトは Yes です。
- _OUT_UNITS - ユニバーサル トランスレータが、出力 DGN ファイルの単位を処理する方法を指定します。デフォルトは IGDS_MASTER_UNITS です。ステップ 1 の Dest_OUT_UNITS パラメータを参照してください。
- _SEED - ユニバーサル トランスレータが使用するシードファイルのパスとファイル名 Dest_SEED パラメータについては、ステップ 1 の注意を参照してください。
- _EXTENSION - 入力ファイルの拡張子を、MapInfo .TAB に設定します。入力ファイルの拡張子が .MIF¥.MID である場合は、".MIF" を指定してください。

- `_BASENAME` - 作成される出力ファイルの名前。入力ファイル名と同じでもかまいません。
- `_FULLBASENAME` - 入力ファイル名と同じでもかまいません。

*** 座標系は、.TAB または .MIF ファイルから直接読み込まれるため、MapInfo CoordSys は必要ありません。